

福岡市総合図書館

映像ホール

FUKUOKA CITY
PUBLIC LIBRARY
MOVIE HALL

シネラ NEWS

12

DECEMBER

1997 No.17

■特 集■

日本映画最初の黄金時代
30年代の日本映画

アジア映画の注目国
イラン映画特集



妻よ薔薇のように



サイクリスト

特集 | 日本映画最初の黄金時代

30年代の日本映画

日本映画最初の黄金時代といわれる1930年代。日本初の本格的トーキー作品「マダムと女房」等日本映画の戦前の傑作を上映。

会期：12月3日(水)～12月7日(日)

12月10日(水)～12月14日(日)

観覧料：500円(大人) 400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制 ※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料。また福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)



「妻よ薔薇のように」

マダムと女房

12月3日(水) 14:00/12月6日(土) 11:00

1931年/35ミリ/モノクロ (57分)

[松竹]

監督：五所平之助

出演：田中絹代



郊外の静かな住宅地へ越してきた劇作家だが、隣のシャズの音がうるさくて仕事はかどらない。劇作家は隣の家へ文句を言おうと乗り込むが、その奥さんの美しさにまいてしまうという物語。日本映画初の本格的トーキー作品として記念すべき作品。全編を同時録音で収録され、3台のカメラで同時に撮影する方式がとられている。

妻よ薔薇のように

12月3日(水) 19:00/12月7日(日) 15:00
12月12日(金) 14:00

1935年/35ミリ/モノクロ (74分)

[P.C.L.]

監督：成瀬巳喜男

出演：千葉早智子



中野実が新生新派のために書いた「二人妻」の映画化作品。砂金探しに家を出てそのまま内妻と暮らすため夫と、東京でただ夫の帰りを待つだけの妻という三角関係を、娘の目を通して描いてゆく。各人の心の微妙な揺れ動きが繊細に表現され、キネマ旬報ベストテン第1位を獲得した成瀬巳喜男監督の戦前の代表作。

伊豆の踊子

12月4日(木) 14:00/12月7日(日) 11:00
12月11日(木) 19:00

1933年/16ミリ/モノクロ

サイレント (93分) [松竹]

監督：五所平之助

出演：田中絹代



川端康成の小説の映画化作品。美空ひばりや吉永小百合等の主演で何度も映画化されているが、本作はその最初のものである。監督は当時、小津安二郎と並んで若手のホープといわれた五所平之助で、味わい深いこの文学を、情感豊かな美しい作品に仕上げている。田中絹代のひたむきで可憐な演技が印象的。

隣の八重ちゃん

12月4日(木) 19:00/12月11日(木) 14:00
12月13日(土) 11:00

1934年/16ミリ/モノクロ (76分)

[松竹]

監督：島津俊次郎

出演：大日向伝



松竹蒲田で数多く作られた“小市民映画”の代表的作品。八重子は隣に住む恵太郎・精二兄弟と仲がよい。ところが出戻りの姉が恵太郎に気があるらしく八重子は気がでない。単純なストーリーで平凡な庶民の生活が淡々と綴られており、庶民の心理スケッチの名人と言われた島津俊次郎監督の代表作である。

浪華悲歌

12月5日(金) 14:00/12月10日(水) 19:00
12月13日(土) 15:00

1936年/35ミリ/モノクロ (71分)

[第一映画]

監督：溝口健二

出演：山田五十鈴



大阪の薬種問屋に勤めるアヤ子は会社の金を横領した父親の借金の返済のために、問屋の主人の愛人となる。誰も助ける者のない境遇の中、アヤ子は自立を目指していく。社会的な弱者である女性の精神の自立を描いて女性映画の殻を打ち破ったと高く評価される、溝口健二監督の戦前の代表的傑作。

祇園の姉妹

12月5日(金) 19:00/12月10日(水) 14:00
12月14日(日) 11:00

1936年/35ミリ/モノクロ (70分)

[第一映画]

監督：溝口健二

出演：梅村蓉子



京都の芸者の姉妹を主人公にした溝口健二監督の代表作。人情に厚い姉と打算的で気の強い妹という対照的な姉妹を、梅村蓉子と山田五十鈴がみごとに演じわける。芸者の非情な女の世界の悲哀や怒りが、克明に描かれる祇園の風景と相まって日本映画史上の傑作となっている。キネマ旬報ベストテン第1位。

五人の斥候兵

12月6日(土) 15:00/12月12日(金) 19:00
12月14日(日) 15:00

1938年/16ミリ/モノクロ (70分)

[日活]

監督：田坂具隆

出演：小杉勇



北支戦線を転戦する岡田歩兵部隊に本隊から命令が下り、5名の斥候兵を送り出すことになる。敵地に近づいた5人は敵の部隊に囲まれ、退路を探す内に離ればなれになってしまう。まるでドキュメンタリーでも見るような抑制された演出がなされており、当時の戦意高揚映画とは一線を画す芸術的作品となっている。キネマ旬報ベストテン第1位。

1930年代の日本映画

サイレント映画末期の1930年頃から太平洋戦争により、まともな映画製作ができなくなる40年代はじめまでは、日本映画の最初の黄金時代と言われている。

20年代後半からおこなわれていた様々な映画のトーキー化の試みが実用段階となり、31年の「マダムと女房」から本格的なトーキー映画の製作が始まる。映画が音と言葉を手にするにより、活弁の世界が失われてゆく時代の変わり目でもあった。この後35年頃までトーキーとサイレントが平行して製作される。

またこの時代は、溝口健二や小津安二郎、内田吐夢、成瀬巳喜男といった、戦前から戦後にかけて活躍する巨匠たちの、戦前の傑作が目白押しに発表される時代でもある。ホームドラマの松竹、時代劇の日活といった既存の映画会社に、33年「ほろよい人生」で新たにP.C.L.(東宝)が加わり、エノケンの喜劇映画等でヒットを飛ばしてゆく。時代劇も大河内傳次郎、市川右太衛門といった大スターの時代である。まさに百花繚乱の黄金時代の幕開けである。



「ほろよい人生」

特集 | アジア映画の注目国

イラン映画特集

現在アジアで最も注目されるイラン映画の注目作を特集。マフマルバフ監督の怪作「サイクリスト」、日本企業の出資により製作された「神さまへの贈り物」等傑作ぞろい。



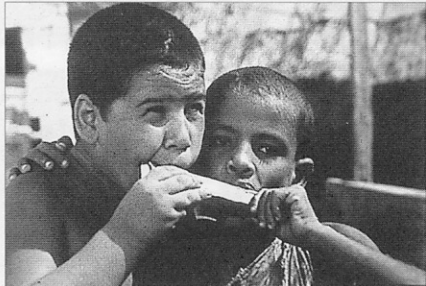
「神さまへの贈り物」

会期：12月17日(水)～12月21日(日) 12月24日(水)～12月27日(土)
観覧料：500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)
※定員制、各回入替制 ※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。また福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

ハーモニカ

12月17日(水) 14:00 / 12月19日(金) 19:00
12月20日(土) 11:00

1973年 / 35ミリ / カラー (75分)
監督：アミル・ナデリ
出演：マームド・グダルズィ



アブドルは苦い薬を飲んだご褒美として、祖父から日本製のハーモニカをもらう。子供達はアブドルのハーモニカを吹いてみたくて、アブドルの言うことは何でも聞くようになる。ハーモニカを象徴として富みと貧しさ、そして権力構造がユーモラスに描かれる。アミル・ナデリ監督は「駆ける少年」「水、風、砂」が日本で紹介されている。

サイクリスト

12月17日(水) 19:00 / 12月20日(土) 14:00
12月24日(水) 14:00

1989年 / 35ミリ / カラー (83分)
監督：モフセン・マフマルバフ
出演：モハッラム・ゼイナルザーデ



アフガニスタンから難民となってイランへ来た男が、妻の入院費を稼ぐために、一週間不眠不休で自転車に乗って走り続けるという見せ物に出演する物語。第1回アジアフォーカス・福岡映画祭で上映され、一躍日本における監督の名前を高めた作品であり、モフセン・マフマルバフ監督の代表作でもある。

イラン映画小史

イランで最初に作られた長編映画は無声映画「アビとラビ」(1930年)であり大ヒットを記録する。すぐにトーキー映画の時代になるが、36年から48年の12年間はイランでは一本の映画も製作されていない。君主レザ・シャーがマスメディアの大衆への影響をおそれ、映画製作を禁止したためである。

レザ・シャーの息子モハマッド・レザ・パーレヴィーが王位に就くと再び自由な時代が訪れる。51年には年間7本の映画が製作され、5つの映画スタジオが建設される。53年には10のスタジオで年間19本の映画が製作され、映画産業は順調に成長してゆく。

しかし53年から63年は宗教上の検閲が厳しくなったため、特筆すべきことは起きていない。53年に起こったクーデターが原因である。それでも68年には年間製作本数は80本にまで増加、69年にはイラン映画のターニングポイントとなる作品「牛」(ダリウシュ・メヘルジュイ監督)と「ゲイザー」(マスード・キミヤイー監督)が登場する。特に「牛」は観客と評論家両方から熱狂的に支持され、イランの批評家が選ぶイラン映画史上のベストテンのベスト1に選出される。また「牛」は外国での国際映画祭で初めて賞を獲得したイラン映画でもある。



「牛」

夢がほんとに

12月18日(木) 14:00 / 12月20日(土) 17:00
12月27日(土) 14:00

1996年 / 35ミリ / カラー (100分)
監督：キャマル・タブリジ
出演：パービズ・パラスツイ



イラン映画の重要な主題の一つであるイラン-イラク戦争を扱った作品。お金を借りるためという目的で戦場に取材に出かけたカメラマンが、最後はイラク軍を撃破する英雄になってしまうという物語で、コメディ的な作品となっている。キャマル・タブリジ監督はこの作品が4作目で、まだ36才という若手の有望株である。

父

12月18日(木) 19:00 / 12月21日(日) 11:00
12月26日(金) 14:00

1996年 / 35ミリ / カラー (92分)
監督：マジド・マジディ
出演：モハマド・カセビ



少年メヘロラは出稼ぎから帰ると、母が再婚していることを知り、裏切られた心境になる。家を出したメヘロラを義父は連れ戻しに行くが、砂漠地帯の中で二人の乗ったバイクは動かなくなってしまう。今年「天使のような子供たち」で注目されたマジディ監督の2本目の監督作品で、義父とメヘロラ少年の心の交流が力強いドラマの中に描かれる。

神さまへの贈り物

12月19日(金) 14:00 / 12月21日(日) 15:00
12月25日(木) 14:00

1996年 / 35ミリ / カラー (81分)
監督：モハマド=アリ・タレビ
出演：マスメ・エスカンダリ



「ザ・ブーツ」「チック・タック」と子供映画の秀作で有名な、アリ・タレビ監督作品であり、日本の会社の出資により製作された日本・イランの合作映画である。お年寄りとおきな女の子が遠くまで配給米を取りに行き、重い米を苦労して家まで持ち帰るまでの様々なエピソードが描かれる。アリ・タレビ監督らしい心温まる物語。

《イラン映画特集第3弾のお知らせ》

1月21日からイラン映画特集の締めくくりとしてアッバス・キアロスタミ監督を特集、「友だちのうちはどこ」「クローズアップ」等を上映します。詳細はシネラ1月号をご覧ください。

「牛」「ゲイザー」の成功は若い監督たちが映画界へ進出するきっかけとなる。アミル・ナデリ、バハラム・ベイザイ、アッバス・キアロスタミといったイラン映画の中核をなす監督達がこの時期デビューしている。70年から74年はイラン映画最高の黄金時代であった。

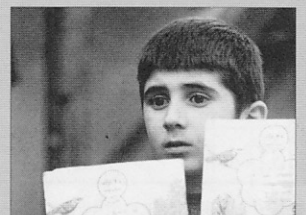
しかし75年から以降、不況の影響により映画業界は次第に衰退してゆく。安易な外国映画の模倣が横行し、75年には年間85本製作されたイラン映画も、78年には38本にまで減少する。

そして79年2月11日のイスラム革命により混乱の時期が始まる。革命から5年間はわずか58本の映画が製作されたにすぎない。また79年9月より始まったイラクとの戦争が混乱に拍車をかけた。

イラン映画が再び注目をあびるのは86年の「駆ける少年」(アミル・ナデリ監督)

が国際映画祭で成功したことによる。その後「友だちのうちはどこ」(アッバス・キアロスタミ監督)「サイクリスト」(モフセン・マフマルバフ監督)等の作品が登場、イラン映画第2の黄金時代を迎えることになる。これらの作品は海外でも高く評価されており、厳しい検閲にも関わらず、現在イラン映画界は世界中の注目の的となっている。

(「'96・イラン映画祭」パンフレットより)



「友だちのうちはどこ」

▼ 映像ホール・シネラスケジュール

月	日	曜日	内 容
12	1	月	休 館 日
	2	火	上映はありません
3	水	30	14:00 マダムと女房 19:00 妻よ薔薇のように
4	木	年	14:00 伊豆の踊子 19:00 隣の八重ちゃん
5	金	代	14:00 浪華悲歌 19:00 祇園の姉妹
6	土	の	11:00 マダムと女房 15:00 五人の斥候兵
7	日	日	11:00 伊豆の踊子 15:00 妻よ薔薇のように
8	月		休 館 日
9	火	日	上映はありません
10	水	本	14:00 祇園の姉妹 19:00 浪華悲歌
11	木	映	14:00 隣の八重ちゃん 19:00 伊豆の踊子
12	金	画	14:00 妻よ薔薇のように 19:00 五人の斥候兵
13	土		11:00 隣の八重ちゃん 15:00 浪華悲歌
14	日		11:00 祇園の姉妹 15:00 五人の斥候兵
15	月		休 館 日
16	火		上映はありません
17	水	イ	14:00 ハーモニカ 19:00 サイクリスト
18	木	ラ	14:00 夢がほんとに 19:00 父
19	金	ン	14:00 神さまへの贈り物 19:00 ハーモニカ
20	土		11:00 ハーモニカ 14:00 サイクリスト 17:00 夢がほんとに
21	日		11:00 父 15:00 神さまへの贈り物
22	月	映	休 館 日
23	火	画	上映はありません
24	水		14:00 サイクリスト
25	木	特	14:00 神さまへの贈り物
26	金		14:00 父
27	土	集	14:00 夢がほんとに
28	日		休 館 日
29	月		休 館 日
30	火		休 館 日
31	水		休 館 日

※満席の場合、入場をご遠慮いただく場合がございますので御了承ください。

ギャラリー展示「カナダ子ども文化展」

会 期：11月28日（金）～12月7日（日）
会 場：福岡市総合図書館1階ギャラリー
観覧料：無料

カナダの絵本、児童書、図録などを展示します。

【お問い合わせ】福岡市総合図書館図書利用課

TEL：092-852-0605

シネラNEWS送付のご案内

シネラで上映する作品の紹介やスケジュール、映像ホール等で開催される各種イベントなどの情報を満載した「シネラNEWS」を毎月お届けします。（但し、要郵送料負担）
申込希望月より'98年3月までの郵送料（90円切手×3月分＝270円）の切手を同封して、下記の宛先までお申し込み下さい。

宛先：〒814 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館映像資料課まで

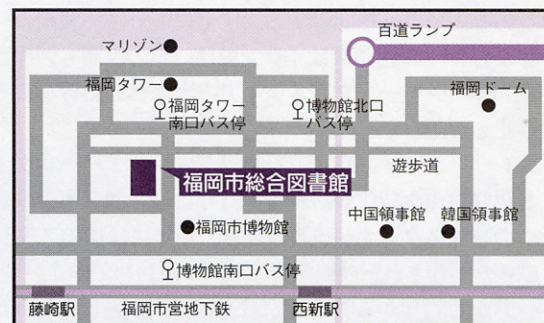
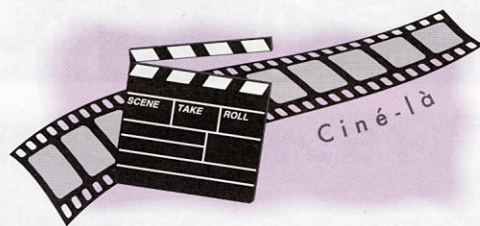
なお、毎月当ホールの上映スケジュールポスターを掲示していただける店舗等も募集いたしております。
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで。

映像ホール利用申し込みについて

平成10年3月以降映像ホールで図書館の企画上映がない下記の期間は、映像ホールを有料で利用することができます。（但し映像文化の普及振興を目的とした非営利の映写会の利用に限る）

期間：平成10年3月25日（水）～3月28日（土）

利用に関しては条件等がございますので、詳しくは福岡市総合図書館映像資料課TEL（092）852-0600までお問い合わせください。



交通機関：地下鉄西新駅および藤崎駅より徒歩15分
西鉄バス博物館南口および
福岡タワー南口バス停留所より1分
都市高速百道ランプより車で2分



Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

お問い合わせは

Tel：092-852-0600 Fax：092-852-0609